



8月24日に山形県鶴岡市において、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 第40回全国研究協議大会東北大会（山形大会）が開催されました。この大会にPTA会長の加藤様と校長で参加して参りましたので、その模様を御報告いたします。コロナ禍が続いたことから、今回5年ぶりに参集方式での開催となりました。午前が全体会と講演会、午後は4つのテーマに別れて分科会が行われました。

【全体会】行政説明

① 「特別支援教育の動向について」

初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 加藤 宏昭 様

- ・特別支援教育を受ける児童生徒数の状況
- ・学習指導要領改訂の方向性、教育課程の編成
- ・特別支援学校知的障害者用教科書の発刊 など



② 「障害児通所支援の動向について」

子ども家庭庁支援局障害児支援課 縄田 裕弘 様

- ・令和6年度障害福祉サービス報酬改定 質の高い発達支援の提供の推進
- ・地域における教育と福祉の連携について など

【講演会】

「知的障がい、発達障がいのある子どもへの親のかかわり方」

山形県立こころの医療センター院長 神田 秀人 様

福祉相談センター（児童相談所）で長く手帳の判定にかかわってこられた経験を踏まえ講演をいただきました。講演の中心は、アタッチメントについて。子どもが安定型の愛着となることが大切で、軽度から中度の場合は、アタッチメントの形成には時間がかかる。関わる大人は焦らず発達を見守り、出来るようになったことを喜ぶ姿勢を保つことが必要。など

【分科会】

第1分科会 「地域との連携 ～小さな輪から大きな輪へ～」

第2分科会 「安全・安心な場を創る ～もしものときに備えるPTA活動～」

第3分科会 「楽しくつながる ～特色あるPTA活動①～」

第4分科会 「楽しくつながる ～特色あるPTA活動①～」



分科会では、それぞれ2校ずつPTA活動実践発表がありました。私は第4分科会に参加。島根県立岩見養護学校は、小・中・高合わせて在籍児童生徒が25名。少ない人数を補う工夫として役員に顧問（卒業生保護者）を3名置いています。また、卒業生保護者会があり、PTA活動や学習活動に協力を得ています。そして、PTAふれあい活動（レクリエーション）や井戸端会議（先輩保護者と現役保護者の交流会）も設けています。小規模校であるところを保護者同士の縦の繋がりでカバーしているところが素晴らしいと思いました。

鹿児島県立鹿児島南特別支援学校は、小・中・高合わせて在校児童生徒が372名。令和5年に移転及び高等部設置に伴いPTAを新しくPTCAとして組織しました。「C」は地域（Community）。会社や福祉事業者、近隣地域の商店からの協力を得ています。組織は、会長、副会長、それに全体活動リーダー。任意活動である良さを生かし、誰もが実行委員会（7名以上）を立ち上げて、パラスポーツ体験、マルシェへの出店、年金勉強会などを開催しています。保護者のニーズを生かした活動を展開できるよう工夫されていました。

学校ごとに強みを生かした活動を行い、組織作りにも工夫されていることに感心しました。さて、来年度のPTA役員を選出する時期です。皆さんのアイデアでPTA活動を盛り上げていきましょう。